

自衛隊神奈川地方協力本部

海自館山航空基地にて中高校生の「隊内生活体験」を支援



隊内生活体験で自衛隊体操をする生徒たち
(海自館山航空基地で)



哨戒機SH-60Kを見学する生徒たち
(海自館山航空基地で)

神奈川地方協力本部上大岡募集案内所(所長 平原 平原1 陸尉)は8月2日から4日まで、海自館山航空基地第2 1航空群司令部で実施された中高生16名に対する隊内生活体験を支援した。

基地では、航空機や教育資料館を見学し、基本教練や結索法、救難消防車に乗り込んでの放水銃による放水体験のほか、パイロットが訓練するシミュレータの体験学習も行い、生徒たちは、真剣な眼差しで操縦桿を握り、指導の言葉に耳を傾けていた。

自衛隊体操では「学校でする体操とは全く違う」と動作に驚きと戸惑いが見られ、苦戦している様子であった。生徒は「貴重な体験ができた」「自信がついた」「自衛隊のパイロットになりたい」などと感想を述べていた。

上大岡募集案内所は「今後も隊内生活体験の支援を通じて、自衛隊に対する関心の喚起と、防衛基盤の育成に努めていく」としている。

募集対象者に潜水艦「うずしお」を特別公開



潜水艦「うずしお」をバックにポーズをとる参加者



潜水艦「うずしお」の外観説明を聞く参加者たち

神奈川地方協力本部横須賀地域事務所(所長 東3 海佐)は、8月7日(月)、米海軍横須賀基地において、海自第2潜水隊群の支援を得て、募集対象者77名に対し、潜水艦「うずしお」の特別公開を実施した。

神奈川県を中心に抽選で選ばれた参加者は、潜水艦を前にして概要説明を受けた後、艦内を見学した。

10mの垂直ラッタルを降りる姿は、真剣そのもので、艦内に入ると通路の狭さや部屋一面に並ぶ機械の多さに驚いている様子であった。また「それはお教えする事ができないんですよ」と隊員が返答すると参加者は、秘匿性が高いことを知り「益々興味が増えました」と話した。

潜水艦に興味を持った参加者からは「貴重な体験ができた」「将来は潜水艦の乗員になりたい」などの声がかかれた。

横須賀地域事務所は「今後も部隊と協力して募集広報を行い、自衛隊に対する関心の喚起と理解促進に努め、志願者の獲得に繋げていく」としている。

富士総合火力演習 (援護協力企業に対し自衛隊の理解を促進)



富士山を背景に熱心に研修する見学者



榴弾砲の一斉射撃により「富士山」が描かれた

自衛隊神奈川地方協力本部(本部長 山野 太資1等海佐)は、8月24日(木)県内企業による自衛隊退職者の援護協力組織である自衛隊神奈川援護懇話会が実施した平成29年度富士総合火力演習研修を支援した。

富士総合火力演習は、隊員約2400人を動員して、戦車・装甲車80両、火砲60門、航空機20機などの自衛隊の様々な装備品により実施される国内最大規模の陸上自衛隊実弾射撃訓練であり、自衛官の日ごころの訓練成果と多種多様な主要装備品を間近で見られる機会とあって、当日は41名の会員が研修に参加した。

炎天下の中、参加者は最後まで熱心に研修し、戦車やヘリコプターの様々な火力展示を目の当たりにして驚きの声を上げるとともに、特科による榴弾砲21門の一斉射撃により空中に富士山が描かれた際には、研修者をはじめとする来場者全員から大きな拍手と歓声が沸いた。

演習後は、先程まで火力を発揮していた戦車やヘリコプターが展示され、間近にした参加者は目を輝かせながら装備品を見学し、始終自衛隊に対する理解を深めている様子で、有効な研修の場となった。

神奈川地方協力本部は「今後も自衛隊神奈川援護懇話会の活動を積極的に支援し、自衛隊に対する更なる理解を得て退職自衛官の雇用に結びつけていきたい」としている。